

2021 年度事業計画案

【キーパーソン 21 の活動目的】

キーパーソン 21 は、主に小中学生から大学生世代に対して、様々な社会人との交流の場を作り、自分の将来について考えるきっかけを持つことで、一人ひとりが視野を広げ、社会へ旅立つことの自覚と自立心を醸成していけるよう寄与することを団体の目的としています。また、すべての世代が、わくわくしながら主体的に社会参加することを支援し、一人ひとりを最大限に活かす社会を創造することを目指します。

【2021 年度目標】

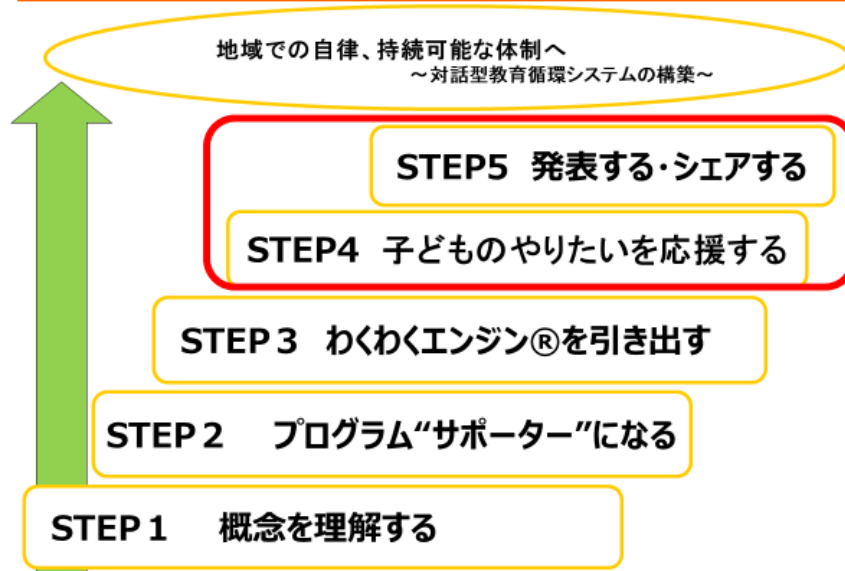
わくわくエンジン[®]があたり前の社会を目指して、中期事業計画で定めた 6 つの事業領域それぞれで礎となる事業モデル作りを継続しつつ、「人づくりから始まるサステナブルな社会」を創造する。

各地において、STEP1～5 の活動を継続、わくナビ講師養成、わくわくイノベーターの創出ノウハウの見える化および地域版わくわくエンジン EXPO の開催を目標とする。

- 親・家庭領域 オンラインすきなもののビンゴプログラムの事業展開
- 教員・学校領域 先生をわくわくさせるプロジェクトを推進
- 大学生・大学領域 わくわくエンジンから人生を選択した若者モデルの確立
- 企業人・企業領域 企業版 5 つの STEP アプローチによる関係性の革新（経営層）
- 生きづらさ領域 なかわくにおいて 5 つの STEP による長期支援活動開始（小 6～中 3）
- まちづくり領域 わくわくエンジン[®]があたり前のまちづくりを支援する

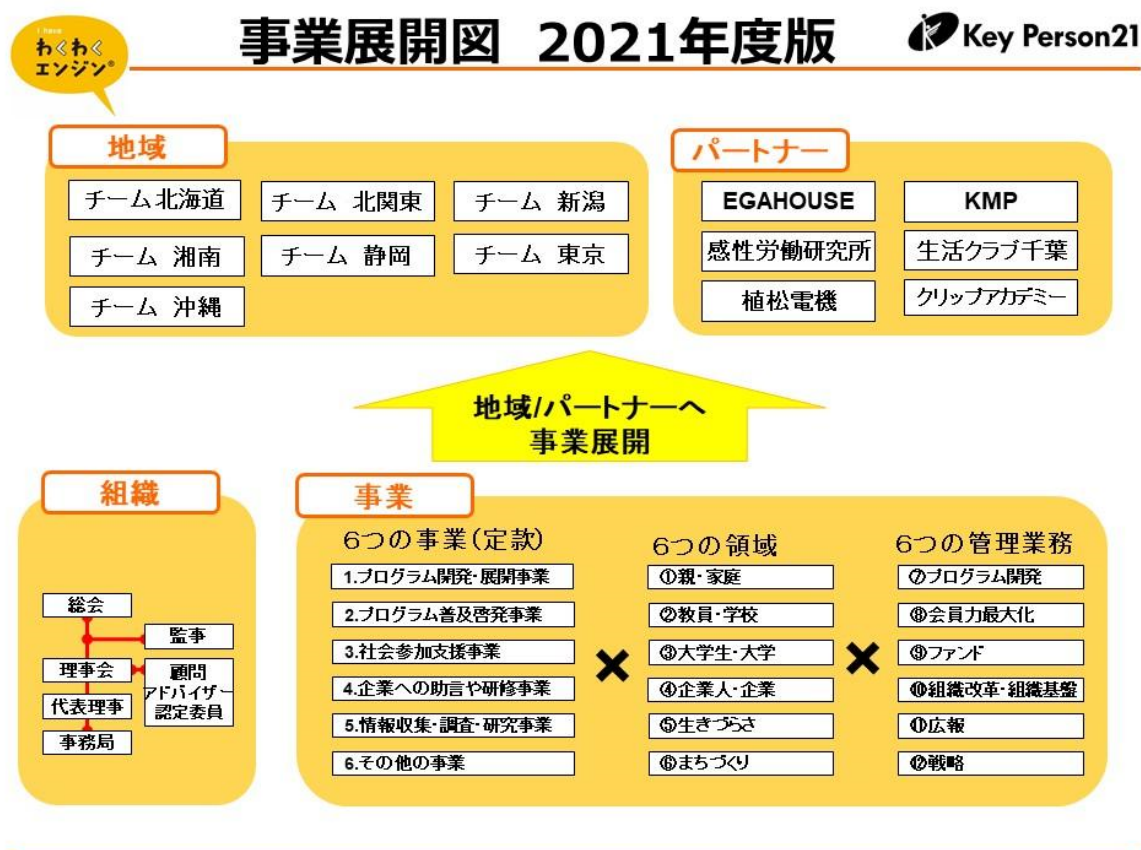
全ての領域において、ファンド戦略、広報戦略と連携する

キャリア教育でつながる地域づくり～拡がりのステップ～



また、わくわくエンジン®の発見から生まれるたくさんの「やりたい！」という気持ちを親や先生、地域の大人たちが応援し、子ども一人ひとりの成長をサポートすることのできる地域モデルをつくってまいります。

【事業展開図】



【ガバナンス】

組織改革・基盤強化の21年度の活動項目に合わせて、監事による重点監査を行い、活動の進捗状況につき理事会と監事で議論を行い、組織基盤・ガバナンスの強化につなげていく。

【事業内容】

I 特定非営利活動に係る事業

1. キャリアプログラムの開発、展開事業

1) プログラム開発事業 <事業展開図⑦プログラム開発>

■ 21 年度の目標

6 領域のそれぞれを起点とした地域自律に向けた普及拡大

■ 21 年度の目標

普及拡大のための施策を打つ

- ・既存のわくナビの会員にプログラムの理解を深め、引き出し講座の受講者を増やす
- ・「オンライン親子ですきなものビンゴ」の事業化

■ 活動項目

<わくナビ養成講座>

- リアルわくナビ講座を 新型コロナウイルス（COVID-19）に配慮しながら開催

10 回開催

ビンゴ 体験&引き出し 6 回、メイン 3 回

コミュ トレーニング 1～3 を 1 回

- 「オンラインすきなものビンゴ」わくナビ養成講座を開催

1～2 回開催予定

- パートナー向けわくナビ養成講座

パートナーからの依頼に応じ開催

- 認定委員会 9 月、2 月の 2 回開催予定（講師認定含む）

<講師養成>

- リアルわくナビ講師を養成する。

1 級認定者を対象に各地域 2 名～3 名目標

<プログラム開発>

- オンライン版おもしろい仕事人の汎用化の検討
- オンライン版かっこいい大人ニュースの汎用化の検討
- 先生わくわくプログラム
- 寺子屋親子向け映像プログラム

2) プログラム展開事業

2-1. 親/家庭向けプログラム実施 <事業展開図①親・家庭>

■ 21 年度のテーマ

子どもが主役！きっかけは、親とまちの大人の変化と成長

■ 21 年度の目標

- ・地域学校協働本部によるまちづくりモデルの自律と展開に向けてのモデル改定
- ・家庭教育の課題解決に向けた、社会教育活動として親とまちの大人の変化の見える化

■ 活動項目

1. 有明地域の資金自立のための近隣企業・大学への協力者拡大へ
2. コミュニティスクール推進検討委員会でのモデル紹介
3. 他のモデル実施希望地域の展開支援
4. 親子向けオンラインすきなものビンゴの事業化
5. 寺子屋事業の体験学習実施

参照)「3. 社会参加支援事業 2) 川崎市寺子屋事業 活動項目 3」

2-2. 学校におけるプログラム実施＜事業展開図②教員・学校＞

■ 21 年度のテーマ

先生をわくわくさせる！「わくわく先生プロジェクト」発動

課題：忙しい、時間がない、先生自身元気がない、仕事に誇りを持ってない、高離職率

子どもの心がわからない、モンスターペアレンツ対応、いじめ対応、不登校対応

■ 21 年度の目標

- ・先生がわくわくエンジンを発見、自己理解「先生がわくわくする」
- ・先生自身の志に立ち戻る
- ・一人の大人として子どもと向き合い、従来の教育の「教える」から、子どもから潜在能力を「引き出す」力をつける

STEP1: 概念理解 事前研修

STEP2: 先生が自分のわくわくエンジンを発見する

STEP3: 児童生徒の前で自分を語る

=以下 2022 年以降=

STEP4: 自分もわくわくナビゲーターになる

STEP5: 児童生徒からわくわくエンジンを引き出す

STEP6: 児童生徒のやりたいを応援する

STEP7: 学校内や地域での発表の場として EXPO の開催

■ 活動項目

●先生わくわくプロジェクト対象（案）：

20 年プログラム実施校等を対象に検討する。

新規のモデル校となる対象校も追加を検討する。

●学校実施：目的・ねらいを明確化して取り組む

・本部実施（ねらいを明確化する）

・企業の子ども応援プロジェクト、パートナー実施、地域チーム実施

●イベント

・キーパーソン 21 の日（5 月）、未来の先生フォーラム（8 月）等の教員交流

・わくわくエンジン EXPO 先生版（案「わくわく先生 全員集合！」）の開催検討

●研究調査

・わくわく先生プロジェクトの効果測定を検討

・学校モデル事例レポート化、イベント効果測定

・公教育から離れ自ら学校を設立した教員の事例、教員志望者減、離職率等の実態把握

●広報（広報チームと連携）

・各イベントの記事化

・動画を活用した事例の広報（youtube、メディア取材など）

・プレスリリース

●キーパーソン 21 アドバイザーとの連携

・アドバイザーとのミーティングや意見交換を継続

2-3. 地域チーム/パートナーによるプログラム実施＜事業展開図⑥まちづくり＞

■21 年度のテーマ

キャリア教育を軸にした持続可能なまちづくりを各地で加速させる

■21 年度の目標

・2020 年度開催したわくわくエンジン EXPO を各地域、団体で行うモデルづくり

・キャリア教育を軸にしたまちづくり、地域づくりを“やってみよう！”とアクションする
人を増やす

・わくわくエンジン®がまちづくりにつながる事例発信（広報と連動）

■活動項目

【地域みんなで子どもを育む持続可能なまちづくりプロジェクトとして】

＜新規向け＞

●地域での仲間づくり応援のための 60 分説明パッケージの開発と提供

（STEP ゼロのイメージ）

●規模や資金等を加味したパートナーシップ提携だけでない繋がりの方の仕組みの整理、提供

＜継続支援として＞

- 2020 年度開催わくわくエンジン EXPO 参加 6 地域への支援
(島根県江津市、鳥取県大山町、新潟県新潟市、滋賀県草津市、沖縄県浦添市、愛媛県上島町) STEP1～5 までの事例を持続可能な取り組みにするための支援を行う
- 地域チーム、パートナーへの継続のためのメニューの充実提案
- 地域との接点を増やし、各地、各団体、各人の状況、情報をキャッチする

＜地域チーム向け＞

- 地域チーム主体での持ちまわりによる、地域事例の水平展開、学び合いの場の定期開催(オンライン)
- 新型コロナウィルス(COVID-19)の影響により対面で行うワークショップだけでないプログラム(おもしろい仕事人がやってくる講演版、かっこいい大人ニュース)が実施できるようなノウハウの提供
- 事務局との協働プロジェクトの提案、実施

＜パートナー向け＞

- フォローアップについての積極的な提案(オンライン&リアル)

2. キャリアプログラムの普及啓発事業

1) 広報、コミュニケーション活動＜事業展開図⑪広報＞

■21 年度のテーマ

A「自分ごと」「自分たちごと」となる「物語化」の推進継続。自分たちが行っていることの社会性・ニュースバリューの意識と発信機会の増加

B イベントにて得られた資産を活用した、広報活動の加速、全領域への組み込み・連携

■21 年度の目標

A 個人にとっても、組織にとってもサステナブルであり、サステナブルな社会につながる 物語を適切なルート、方法で届けていく

B 広報開眼元年となった、EXPO で得られた資産(実行によって得られたノウハウ、コンテンツ資産、人、ネットワーク)を有効活用し、機を逃さないよう社会とのリレーションを築いていく

■活動項目

- 世の中・組織の状況が変わる中での、組織のリソース、優先順位を踏まえたアクション の整理と体制整備
- 効果的に広報を行うための戦略・目標・目的の最適化
- 発信情報、見せ方、発信方法の整理と発信
- 外部リソースを活用した、広報施策のレバレッジと実施～一歩前へ～

（実施を検討している施策群）

- ・著名人・インフルエンサーへのアプローチ
- ・わくわくエンジン EXPO に代表される地域の取り組みと子ども・大人たちの姿の発信
- ・現代若者像の発信：キーパーソン 21 の会員から
- ・自治体首長との対談・自治体連携の模索
- ・大手メディア・番組へのアプローチ
- ・地方メディアとの関係強化、後援依頼
- ・メディアとのリレーション構築～キーパーソン応援団とすべく～
- ・メディア以外のステークホルダーとのリレーション構築
- ・企業・企業団体へのアプローチ
- ・企業のサステナブルブランドに寄与する協賛企業の PR
- ・インスタグラムの活用
- ・書籍出版
- ・効果的なニュース・プレスリリースの発信
- ・note ベースでのオウンドメディアの構築
- ・Web サイトレスポンス化後の必要に応じた改修
- ・効果的な認知、コンバージョンを意識したランディングページの設置

2) わくわくナビゲーター養成講座および講師育成＜事業展開図⑦プログラム開発＞

■ 21 年度のテーマ

わくわくナビゲーターを価値化する

■ 21 年度の目標

わくわくナビゲーターの学びと成長のためのコミュニティを全国のわくわくナビゲーターが参加できるよう、オンライン上につくる

■ 活動項目

● わくわくナビゲーター講師の育成

「すきなものビンゴ&お仕事マップ」のわくわくナビゲーター養成講座の講師の育成

（2～5 名程度）

● わくわくナビゲーター2 級・1 級養成

● わくわくナビゲーター活動の仕組みの整備

- ・1 級養成の魅力の整理
- ・更新の仕組みの整備と運用の見直し
- ・改訂前の講座を受けたわくわくナビゲーターに改訂やプログラムの変更を伝える段取りの実行

- ・わくわくナビゲーターの学びと成長の場づくり（わくわくナビゲーターラボ＊仮称）
- わくわくナビゲーター養成講座の開催
 - ・川崎本部開催 リアルとオンライン合わせて 15 回開催
（リアルかオンラインかは新型コロナウイルス（COVID-19）の状況に応じて判断）
 - ・地域開催は普及の状況に合わせて開催する
- 認定委員会の開催（1 回）
 - ・講師育成、わくわくナビゲーター養成講座の進め方などに関する意見をいただく

3. 社会参加支援事業

1) 川崎市学習支援・居場所づくり事業（通称：なかわく/こすわく）

＜事業展開図⑤生きづらさ＞

■ 21 年度の目標

生きづらさこそ社会変革のスタート！生きづらさを抱えた子どもの一人ひとりの脱皮感・成長感・変化変容を長期的にサポートする

■ 21 年度の目標

変化につながった子どもや学習サポーターの成長事例を毎年恒例の 3 月のお祝い会で発表

■ 活動項目

1. 川崎市の委託事業「（通称）なかわく」と自主事業の「（通称）こすわく」の学習支援居場所づくり事業を行う（8 年目）
 - なかわく 2 か所週 4 日開催
 - こすわく 1 か所週 2 日開催

● 学習支援と居場所の機能を備えたオンラインのプログラムの充実

※新型コロナウイルス（COVID-19）収束後、リアル対面での学習支援が復活しても、オンライン学習は並行して行う見込み

- （1）オンラインによる学習支援と居場所機能を充実する
- （2）学習支援の現場のメンバーによるわくわくエンジン[®]活用モデルを試行する
- （3）中 3 生を対象に面接対策としてわくわくエンジン[®]発見プログラムを実施する
- （4）小 6 生を対象にわくわくエンジン[®]発見プログラムによる長期的成長を支援する
STEP4/5 のワークシートの活用寄り添いモデルを開発（なかわく小 6～中 3）
- （5）生きづらさを乗り越えた経験をもつ若者を「おもしろい仕事人がやってくる」のプログラムにて話してもらう（2 か所）
- （6）子ども、学習サポーターの変化変容の事例をシェアする

2. 生きづらさからの社会課題発見と対策を考える会を「キーパーソン 21 の日」において行う

3. こすわく事業への寄付確保と寄付者とのコミュニケーション強化

(1) 継続寄付いただいている企業・グループ・個人など

(2) 事業展開図⑨「ファンド・財務」との連携

2) 川崎市寺子屋事業＜事業展開図①親・家庭＞

■ 21 年度のテーマ

主体的な学びの提供

■ 21 年度の目標

- ・学習支援の寺子屋先生の維持または増員をし、安定した運営の実施
- ・自分のわくわくエンジン®を生かして周りの役に立つことを考えるプログラムやわくわくエンジン®発動ストーリーの動画制作プログラムの実施

■ 活動項目

1. 川崎市教育委員会より、6 年目となる寺子屋事業の委託を受け、中原区内にある川崎市立今井小学校で事業の実施。放課後学習支援と体験学習の二つが主な事業
2. 放課後学習支援は、子どもを対象に年間 26 回の水曜日の放課後に実施
子どもたちの放課後の居場所を提供と、地域の大人を中心とするスタッフによる学習支援
3. 体験学習は、親子対象に年間 6 回土曜日に実施。普段学校の授業では教わらないような学びの提供（新型コロナウイルス（COVID-19）の影響により方法や回数の変更の可能性あり）

4. 人材育成を目的とした企業、団体等への助言、研修事業＜事業展開図④企業人・企業＞

■ 21 年度のテーマ

企業とともに進む、「人づくりから始まるサステナブルな社会」へ

■ 21 年度の目標

1. 企業アプローチ 5 つのステップ推進
2. コンソーシアム構想の具現化～「社会課題」の明確化と協働仲間づくり

■ 活動項目

1. 企業アプローチ 5 つのステップ推進
企業の ESG 活動としての本格的な（経営者との）協業モデルの展開

STEP1 わくわくエンジン概念理解、企業研修

STEP2 わくわくエンジン理解チームづくり、わくナビ研修

STEP3 学校など地域で実施する

STEP4 子どもを職場体験などで受け入れる、子どもたちを応援する

STEP5 地域で EXPO する

例) 地域子ども応援プロジェクトの発展

カシオ（CSR 推進室）とコカ・コーラ（CSR レポート）の事例を展開

●キーパーソン 21 との協働を通じての企業のブランド作りとは

—CSR としての地域貢献

—活動を通しての社員の成長

—ESG 活動としてのサステナブルブランドの確立

2. コンソーシアム構想の具現化～「社会課題」の明確化と協働仲間づくり

人づくりからはじまるサステナブルな社会作りを目指して、コンソーシアムの具現化

3. 広報強化

企業と地域と連携して「社会課題」を解決する NPO としてブランド作り

4. 企業へのアドバイス・サポート活動

博報堂 H-CAMP への継続支援

5. 教育に関わる情報収集、調査研究及び発信事業 <事業展開図⑪広報・⑫戦略>

■21 年度のテーマ

社会の課題へのソリューションとしてのアピール力をもつ

■21 年度の目標

社会に共感と理解とインパクトを与えられる調査研究と発信を行う

■活動項目

●効果測定方法の検討

事業の 6 つの領域で抱える課題を調査研究、効果測定を行う。結果について関係各所に発

信、提言する機会を探る

・コカ・コーラ財団のプロジェクトの地域活性としての効果測定を行う

・わくわくエンジン®を発見した大人の変化変容を調査研究する

・Web アンケートを行い、社会課題のデータを獲得し、そのソリューションをキーパ

ーソン 21 が持っていることの確認と発信を行う

6. その他目的達成のために必要な事業

1) 会員力最大化<事業展開図⑧会員力最大化>

■ 21 年度のテーマ

- ・新規会員、既存会員とも、誰一人取り残さない！
- ・会員継続率 100%、退会率 0%を目指して！

■ 21 年度の目標

- ・新規会員、既存会員がキーパーソン 21 での活動に迷わずに、具体的アクションを起こしやすい環境を整備し、きっかけとなる機会を提供する

■ 活動項目

- ・オンライン説明会の定期開催（月 1 回ペース）
- ・会員コンシェルジュによる入会初期フォローの継続
- ・既存会員（個人・法人とも）との個別コミュニケーション実施
- ・スターターキットのバージョンアップ（興味関心別活動ガイドの追加）
- ・学び・交流・行動のきっかけの場として、キーパーソン 21 の日の毎月定期開催
- ・わくナビ・講師・エバンジェリスト等、会員がキーパーソン 21 内でできる役割の要件と育成方法等を整理し公開する

2) 大学生応援/OBOG 会<事業展開図③大学生・大学>

■ 21 年度のテーマ

わくわくエンジンをもとに進路選択することの人生における納得感と充実度の高い若者像をブランドとして発信していく

■ 21 年度の目標

わくわくエンジンをもとに生きる若者モデルをストーリーとともに社会に対して、発信する

■ 活動項目

- ・わくわくエンジン若者モデル発信（対外／対内（キーパーソン 21 の日！及び OBOG 会等））
- ・学生会員募集オンライン説明会（年 2 回程度）
- ・各地で開催するわくわくエンジン EXPO に現役学生会員、OBOG が登壇するサポートをする
- ・学生会員 OBOG 会の開催（毎年 12 月第 1 日曜日）

II 営利活動に係る事業

1. その他の事業

1) 寄贈品、グッズなどの物品販売

特に活動計画なし

2) 著作、出版物の制作・販売

特に活動計画なし

3) 会員のサークル活動支援事業

特に活動計画なし

2. 管理内容

1) 財政基盤を構築する＜事業展開図⑨ファンド＞

■ 21 年度のテーマ

マンスリーサポーター制度の実装

■ 21 年度の目標

マンスリーサポーター100 名獲得

■ 活動項目 ※については、広報領域と協働して進める

【ファンド領域】

- ・マンスリーサポーター制度のリリース
- ・募集用ランディングページ（LP）の作成※
- ・LP→決済→管理システム（Salesforce）の円滑な連携の構築

【親・家庭領域】

- ・親子向けオンラインビンゴを通じた潜在的寄付者層へのアプローチ※
- ・オンラインビンゴ参加者→会員/寄付者、わくわくナビゲーターへの導線構築

【教員・学校領域】

- ・「先生をわくわくさせるプロジェクト」への寄付・協賛の獲得※

【企業人・企業領域】

- ・「人づくりから始まる持続可能な社会づくり」に共感してくださる企業へのアプローチ※

【生きづらさ領域】

- ・こすわくへの企業寄付・個人寄付の募集

2) 組織改革・基盤強化＜事業展開図⑩組織改革・基盤強化＞

■ 21 年度のテーマ

わくわくすることをやれる組織、エクセレントな NPO に向けた基盤整備

■ 21 年度の目標

やらなければならないことは標準化・ルーチン化して手間をかけず当たり前を実施する

■ 活動項目

【ガバナンス】

- ・理事会と事務局の相互コミュニケーションによる経営視点の議論の活性化
- ・経営視点を踏まえた情報開示・情報発信の強化

【人事・労務】

- ・各領域ニーズから人の募集と円滑な引き継ぎのサポート
- ・人に関わる規程の継続整備と早期の業務委託契約締結、契約対象者拡大
- ・役割期待確認の期初・中間・期末実施をルーチン化できる仕組みの整備
- ・予算立案・業務配分・面談・契約・評価・報酬の仕組みの改良検討

【経理・財務】

- ・2020 年度決算における経理業務負担の軽減と前年度の不足・不備の補完
- ・2021 年度予算の期初振り分け実行（決算処理負担軽減、月次管理レベル向上、事業区分別や個別プロジェクトの予算管理等を目指す）
- ・月次の予実管理の継続実施とレベル向上
- ・経理スタッフ増員による体制強化
- ・地域チームにおける会計の管理強化（現金管理レベル向上、新規創設時の基準作り）

【総務】

- ・認定・条例指定の継続に向けた手順・スケジュール確認と対策実施・業務引継
- ・グッド・ガバナンス認証活用法の検討・実行（他領域と連携）
- ・各自の事務局業務の標準化・マニュアル化と複数担当体制の充実

【事業計画管理】

- ・「領域毎の年度戦略・計画策定、理事確認会、進捗管理」の仕組み継続
- ・中期事業計画の中間点検と必要に応じた見直し

【情報管理】

- ・紙文書の整理と保管ルールに則った管理の継続
- ・電子文書保存ルールに則った Dropbox 内文書の保存と整理の継続

【リスクマネジメント】

- ・新たな事業活動や外部との新たな契約に関するリスクマネジメント

3) 戦略を立案する＜事業展開図⑫戦略＞**■ 21 年度のテーマ**

「人づくりから始まるサステナブルな社会」を目指す NPO としてブランドを打ち出す（事業・広報・ファンドの施策の拠り所となる中長期の戦略軸を作り、領域毎の戦略と整合

性を取り、推進管理していける状態を作る)

■ 21 年度の目標

- ・わくわくエンジン®が当たり前の社会のゴールイメージを明確にする
- ・ゴールイメージを実現するための問題の構造や解決手順をクリアにし、キーパーソン 21 が注力すべき活動のポイントを明確にする
- ・学校教育、家庭教育、企業・行政等との協働を具現化する

■ 活動項目

【広報戦略】

外部のコンサルタントの支援を受けながら、メディア露出を増大し、ブランドイメージを確立していく

【組織戦略】

外部のコンサルタントの支援を受けながら、以下の手順で組織づくりの戦略を策定する

1. 組織使命（ミッション・ビジョンの再定義、ゴールイメージ図の作成）
2. 問題構造（実態から問題の構造を把握する）
3. 問題解決仮説（コレクティブ・インパクト・アプローチ）
4. 成果目標（ロジックモデルの作成）
5. 財務基盤（ファンドレイジング・プラン作成）
6. 組織基盤（組織構造改善、チームビルディング、人材能力向上）

【事業戦略】

- ・わくわくイノベーター養成に着手する

以上